

排水ポンプ6基、調整池3カ所で浸水軽減

9月議会で大谷市議は、花月川右岸の内水氾濫対策で浸水シミュレーションの結果について質問。上下水道局長は「今年度雨水管理総合計画を策定し、令和7年度以降に設計に着手する」と答弁しました。

大谷市議は、浸水シミュレーションの結果と、これを踏まえてどのような対策を考えているのか質問しました。

上下水道局長は「花月川右岸日田市の時間当たり65ミリの降雨計画と29年の時間降雨84ミリで対象地域の浸水深の解析をした。比べると45cm以上の浸水域が84ミリで約2倍の面積となる」と答弁。対策として「雨水調整池の設置(3ヶ所)、排水ポンプ施設(6ヶ所)の設置、雨水幹線の新設や改修等の実施で浸水を軽減できる」と答弁しました。

具体的な取組について、局長は「自治体が下水道事業で雨水整備を行なう際には、雨水管理総合計画がまとめられているので、今年度より計画の策定に向けて準備をしている」と答弁。

今後のスケジュールについて局長は「計画策定に2年を予定している。今年度雨水管理方針を策定、令和5年度に整備水準、施設等の基本的な事項を定める。令和6年に事業実施に向けた下水道の事業計画変更を行ない、令和7年度設計に着手できるように務める」と答弁しました。



今年度に雨水管理総合計画を作成

市に申しできれば減額の可能性も

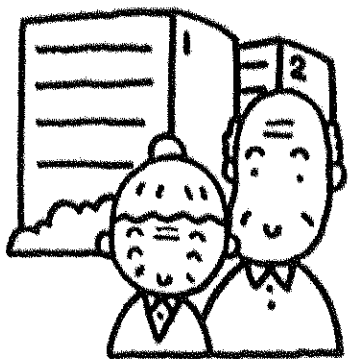
大谷市議は公営住宅の入居者で、持続化給付金など給付を受けた世帯が住宅家賃に影響する問題や、エレベーターのない棟の改善について質問しました。

持続加給金の家賃算定

公営住宅の入居者で、新型コロナウイルスの事業者向け給付金を受給した人は、住宅家賃に影響し負担が増える可能性があります。市は入居者から受給の申告があつた場合は、対象所得から控除して家賃を算定すると答弁しました。

大谷市議は「相談件数がないのは関係者が知らないというところで、チラシで知らせるべきではないか」と質問。

土木建築部長は「家賃算定で事前に知らせていないので、



給付金の取り扱いについて知らせる。今後は取り扱いについて分かりやすく記載する」と答弁しました。

公営住宅のエレベーター設置

公営住宅の入居者の高齢化も進み、市のアンケートで

豪雨で花月川の氾濫や増水により、内水氾濫対策が切実な課題となり、これまで市や県国に働きかけてきました。しかし、市は国の補助事業では膨大な計画と予算を必要とするので、地域的な対策はできないとして単独費用で取組んでいました。線状降水帯発生など、激甚化の中で国もガイドラインを見直し、計画を策定すれば国の補助事業で浸水対策事業に取組めるようになりました。

もエレベーターの設置やバリアフリー化が求められています。多くの棟が改善されたいません。市の今後の取り組みを質問しました。

部長は「市では3階以上の中層住宅44棟のうち18棟は立て替えや大規模改修でエレベーターを設置した」「今後はエレベーターのみを単体で設置する方法もあるが、多様化する生活形態、居住ニーズを考慮し、共用部分や住戸内のバリアフリー化とユニバーサルデザインの導入、間取りの変更など住棟全体の大規模改修と合わせてエレベーターの整備をしていく」と答弁しました。

中小事業者むけ持続化給付金の受給者で 公営住宅入所者は家賃に影響

